

## 「総合的な学習の時間」授業報告

広島県立賀茂高等学校

教諭 松島浩司

### 1 本校の「総合的な学習の時間」

平成 27 年度から始まった「広島版『学びの変革』アクションプラン」では、県立学校において生徒のコンピテンシー育成を目指し、課題発見・解決型学習を通して、生徒の能動的な学びを引き出す実践研究を行っている。また、本校の学校経営計画では自校の使命を「賀茂台地の伝統校として、その歴史と校是『信 敬 愛』を誇りとし、文武両道に励み、随所にリーダーとして、郷土をはじめ社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。」としている。本校では生徒自身の能動的学習を通して本校のミッションを達成するため、「総合的な学習の時間」を **Glocal Action Program** (以下 **GAP** と略す) とし、平成 28 年度から実践しており、目標を次のように定めている。

- (1) 地域の諸問題に目を向け、幅広い視野から深く物事を考える態度を身につけるとともに、異文化間活動に対応できるコミュニケーション能力を養う。
- (2) 体験的な学習活動を通じて習得した知識や技能を活用し、問題解決に向けて、協働して主体的に行動する態度を養う。
- (3) 社会に関心を持ち、グローバル社会と地域との関連性を理解し、自分の生き方と関わらせて考え、自分の言葉で発信できる能力を養う。

これらの目標を達成するために、1 年次には「Ⅰ 東広島を知る」・「Ⅱ 学問領域からのアプローチ」・「Ⅲ 世界とのつながりを知る」・「Ⅳ 東広島を知る」の 4 つの単元を設け、様々な知識をインプットするとともに、論理的思考力、批判的思考力を身に付け、最終的に「安心な暮らしづくり」・「あらゆる分野での人づくり」・「新たな経済づくり」・「豊かな地域づくり」の 4 領域について考えさせることとしている。

### 2 授業実践

研修旅行でドク・ツェントルム、ツェッペリンフェルト、ダッハウ強制収容所、アンネ・フランクの隠れ家を訪問し、1929 年以降のナチスの歴史を学ぶことができた。そこで、これをもとに **GAP** の教材開発を行うこととした。これは **GAP** の目標 (1) および (2) の達成を目指すものであり、**ESD** の理念のひとつである「平和と共存 (=人間の尊重, 多様性の尊重, 非排他性)」につながる と考える。この授業は「Ⅲ 世界とのつながりを知る」に位置づけた。単元指導計画は次の通りである。

本単元では、生徒自身による調べ学習を通して、主にナチスがどのようにして台頭することとなったのか、なぜナチスはユダヤ人の虐殺を行ったのかについて理解させ、排他主義の危険性を学ばせるとともに、現代の様々な社会事象を客観的に捉え、批判的に思考する力を身に付けさせたいと考えた。なお、調べ学習にあたっては、生徒が安易にインターネットの情報のみに頼ることの無いよう、教師が現地で購入した資料を与えた。

## 単元指導計画

(1) 教科：「総合的な学習の時間（Glocal Action Program）」

(2) 授業クラス：2年4組（40名）

(3) 単元名：「平和と共存」について考えよう

(4) 単元目標：

- ① ナチスの歴史に関する学習を通して排他主義の危険性を知る。
- ② 現代の様々な社会事象を客観的に捉え、批判的に思考する力を身に付ける。

(5) 単元計画：

時間	授業内容	評価方法
1	<p>① 教師のドイツ研修についての説明            画像を見せながら、ドク・ツェントルム、ツェッペリンフェルト、ダッハウ強制収容所、アンネ・フランクの隠れ家の概要について説明する。説明にあたっては、教師の主観が入らないように留意する。</p> <p>② グループに分かれて調べ学習            生徒を5名×8班のチームに分け、それぞれドク・ツェントルム（2チーム）、ツェッペリンフェルト（2チーム）、ダッハウ強制収容所（2チーム）、アンネ・フランク（2チーム）について調べる。            これは次回までの課題とする。</p>	
2	<p>① 2チームが1グループとなり、各チームは自分たちと異なるテーマについて調べた3チームからそれぞれのテーマについて説明を受け、学習を深める。</p> <p>② 現代社会において、「人間の尊重」・「多様性の尊重」・「非排他性」が損なわれていることがないかについて各グループで話し合う。</p>	観察
3	<p>① 前時に続いて話し合いを行う。</p> <p>② 各グループは発表を行い、「平和と共存」について考える。</p>	観察 生徒の自己 評価

(6) ICE モデルに基づく単元の評価規準：

判断基準 資質・能力	Idea	Connection	Extension
批判的思考力	様々な事実と意見を区別して理解し、整理して述べることができる。	様々な事実や意見を自らの課題として捉え、公平に判断しながら課題の本質を考えることができる。	様々な事実や意見を公平な判断に基づいてその本質を評価し、建設的、協調的、代替的に思考・判断しながら課題解決に向けた方策を提案することができる。
協働、コミュニケーション	他者と協力して学習活動を行いながら、課題発見・解決に取り組むことができる。	協働活動において自分の役割を認識し、他者の考えや行動に共感し、それらを尊重しながら課題発見・解決に取り組むことができる。	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感しながら他者と協働して課題発見・解決に取り組み、課題解決に向けた方策を提案する中で自分の意見や考えの正当性と有意性を主張することができる。

3 検証結果

授業後のまとめ（生徒による自己評価）の結果と感想を見る。（表1，表2）

表1 生徒の自己評価結果

質問項目	A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
1. どのようにしてナチスがドイツ国民を支配していったのかについて理解できた。	35.0	55.0	10.0	0.0
2. ドク・ツェントルムがどのような場所なのか、そこで何が行われたのかについて理解できた。	30.0	60.0	10.0	0.0
3. ツェッペリンフェルトがどのような場所なのか、そこで何が行われたのかについて理解できた。	30.0	60.0	10.0	0.0
4. ダッハウ強制収容所がどのような場所なのか、そこで何が行われたのかについて理解できた。	32.5	62.5	5.0	0.0
5. アンネ・フランクの隠れ家での生活から、彼女が強制収容所で亡くなるまでの過程について理解できた。	25.0	65.0	10.0	0.0
6. 当時のドイツ国民がなぜヒトラーやナチスに魅了され、ヒトラーを信じたのかについて理解できた。	20.0	65.0	15.0	0.0
7. ナチスがなぜユダヤ人を虐殺したのかについて理解できた。	17.5	70.0	12.5	0.0
8. 自分の担当テーマについて、他のチームの人に正確に情報を伝えることができた。	12.5	60.0	22.5	5.0
9. 今回の授業で学んだことと現在世界中で起こっている紛争などの諸問題を関連づけて考えることができた。	5.0	55.0	30.0	10.0
10. 調べ学習では、チーム内で役割分担をして学習を進める	7.5	62.5	25.0	5.0

ことができた。				
11. 現在世界中で起こっている紛争などの諸問題を考えるときに、積極的に意見や考えを伝えることができた。	10.0	52.5	27.5	10.0
12. 今回の学習を通して、世界中で起こっている紛争などの諸問題への興味関心が増した。	20.0	62.5	12.5	5.0

※評価の数字は%

表2 生徒の感想（抜粋）

第一次世界大戦後で生活が苦しくて、国民がヒトラーを信じたのはしかたなかったのかもと思った。私も同じ状況だったら信じていたと思う。
ヒトラーは演説が上手で、宣伝がすごいと思った。何でもすぐに信じずに、自分でいろいろ調べないといけない。
ISとかテロの問題があるけど、宗教で人を差別してはいけないと思った。
テロのせいでイスラム教の人たちがいじめられりしている。私もイスラムに怖いイメージがあったけど、もうちょっと調べてみようと思った。
アンネがいろいろな強制収容所に入っていたのは知らなかった。アウシュビッツはドイツにあると思っていただけ、ヨーロッパにたくさんあったのは驚いた。
ナチスの強制収容所が数えきれないくらいたくさんあったのは知らなかった。収容所に入れられたのはユダヤ人だけじゃなくて、政治犯とかたくさん入れられて、人体実験までしていたと知って、ひど過ぎると思った。
「働けば自由になれる」という言葉を信じて、みんな死んでいった。こんなことは二度とあってはいけないと思う。ドイツに行って、見てみたいと思った。
ドイツの人たちは強制収容所とかの施設を残して、過去のことを忘れないようにしていると思う。広島も原爆ドームとかあるけど、ずっとのこしておかないといけないと思う。
日本でもヘイトスピーチとかあるけど、外国から来る人はどんどん増えているので、一緒に生きていけないといけないと思う。

生徒の自己評価結果を見ると、ナチスの歴史等について正確に理解するとともに、現代社会の諸問題と関連づけて考えることが概ねできていると考えられる。生徒の様子を観察すると、特に強制収容所に関しては多くの生徒がショックを受けているようで、人権を尊重や非排他性について述べていた。多くの生徒がISなどによるテロや日本でのヘイトスピーチと関連づけているようだった。

過去の歴史的事実から現代の諸問題への解決の糸口を探り、問題の解決に向けた提案まで進めるに至るにはまだまだ時間をかける必要があると思われるが、今回の授業は持続可能な社会づくりへの意欲・関心を高めることができたのではないだろうか。